

WEBで読む「建設通信新聞」

建設通信新聞Digital
http://kensetsunews.com
PCで「建設通信新聞」記事検索・メール配信
日経テレコン21/Factiva/G-Search/NewsWatch
工事情報の検索なら「建設工事の動きDigital」
https://ugoki.kensetsunews.com/

THE KENSETSU TSUSHIN SHIMBUN

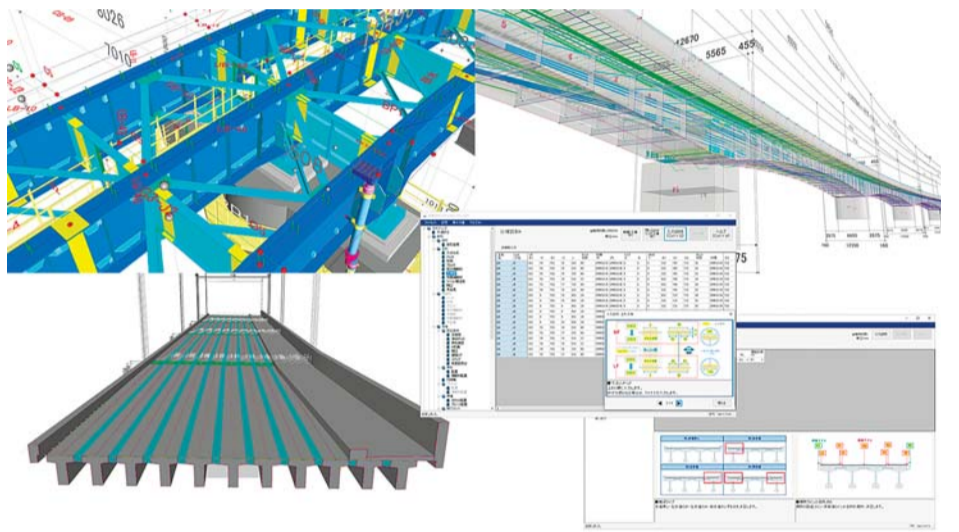
建設通信新聞

Architectures, Constructions & Engineerings News (Daily)

2022年(令和4年)8月26日(金曜日) (第三種郵便物認可)

橋梁CIMコレクション 200ライセンス目指す

オフィスケイワン(大阪市)は、橋梁CIMシステムの開発・販売、ICTサービスの提供などを手掛けている。多様な製品ラインアップを取りそろえ、ユーザーのニーズに応えるため継続的にバージョンアップしているほか、国土交通省の「建設現場の生産性を飛躍的に向上するための革新的技術の導入・活用に関するプロジェクト」に4年連続で参画するなど活躍の領域を広げている。



橋梁CIMコレクション

付属物「CIM-KABUKO」を設計向けの「CIM-PLAN」を加えたものとなる。このシステムを単体利用する場合は計228万円だが、パッケージでは半額以下の96万円となる。このほか、鋼橋対応とPC橋対応に分けたパッケージも用意している。現在の販売数は3システムで計45ライセンス(7月末時点)。

必要数値を入力することでモデルリングを完成させることができ、3D CADに不慣れな設計者でも対応できる。一般的に3Dモデルは2次元図面に比べて品質チェックが困難となるが、設計照査時に必要項目を表現形式にまとめたチェックシートを生成してくれる便利な機能もある。

同社では適宜、不具合に対応するとともに、年に2、3回各ソフトウェアのバージョンアップを行う。2023年度の国土交通省BIM/CIM原則適用を踏まえた新たなユーザーの獲得も見込む。一問合わせも増えており、3年以内の200ライセンスまで増やしたい(保田社長)と目標を掲げる。

将来的には設計条件や起点、終点を設定すれば自動設計できるシステムを目指しており、「経験の少ない設計者でもプランが立てられるようにしたい」と(同)と話す。

従来の衛星からバッテリーを改良したほか、ダウンリンク速度を高速化し、取得するデータ量を増やしたことで政府から民間間で幅広い顧客ニーズに対応する。Strix-1に続いて23年末までに合計6機を軌道に打ち上げ、26年後には30機のコンステレーションを構築し、広範囲、高頻度の地上観測が可能なシステムの構築・運用を目指す。

日本ポーツ振興センター(JSC)が募集していた「新秩父宮ラグビー場(仮称)整備・運営等事業」のPFI事業者が鹿島代表者とするグループに決まった。築夫代表者とするグループの入札金額は25億7443万6000円、三菱地所代表者とするグループは35億7063万6958円で、鹿島グループの81億8181万8182円とかなり差があった。

施設整備費とスポーツ博物館の維持管理費を合わせた価格が運営権対価を引いた価格を合算した。鹿島グループは、施設整備費と博物館の維持管理費の合計が49億4061万0800円で、運営権対価41億5879万1907円を引いた。Cほかの応札者の金額の内訳は明らかになっていないので何とも言えないが、施設整備費や維持管理費で140億円以上の違いが応札者によって出るとは考えにくい。JSCは、入札公告時に運営権対価の下限額を100億円としており、鹿島グループはその4倍以上の額を提示した。JSCも全員で、運営権対価に触れず運営権に限り「かなり大きい」と話していた。施設に外部向け飲食店を設けたり、多様なスポーツの利用を可能にするなど、かなり大きな収益を見込めたのだと思える。

新ラグビー場も区域内に含まれる「仮称」神宮外苑地区市街地再開発事業との相乗効果もあり、大きな収益見込みだのかもしれない。それにしても、かなりチャレンジングな運営権対価を設定しているようだね。JSCは「今後の国のスポーツ施設のPFI事業に良い影響を与えたい」とも話していた。周辺再開発と一体化したスポーツ施設のPFIであれば、大きな収益を見込めるかもしれないという期待が膨らむね。

学生時代、某教授から「君はマルクスの『資本論』は原語で読んだ方がやさしいよ」と言われたことがあった。中学、高校と6年間も勉強した英語ですらままならない筆者にとって、突拍子もない話であった。当時、専攻は社会学だった。社会学の祖であるオーギュスト・コントの母国語である仏語を第2外国語に選んでいたこともあった。とはいえ、資本論をかじらないわけにもいかず、文庫本を買って日本語訳版を読み始めたのだが、とたんに挫折した。冒頭の発言は、その挫折した話

を某教授にした時にされたのだ。別の本では「なぜ、日本の学者は、簡単なことをこんな難しく書くのだろうか。そうしないと学者の活券に関わることも思っているのだろうか」と思っていたこともある。

「難しいことをかみ砕いて、やさしく、誰にでも分かるように書くのが記者の仕事だ」とはこの仕事に就いてはじめてから先輩に言われた言葉だ。義務教育を終えた人が一度読んだだけで理解できることが望ましいのだが、専門紙になるとその業界ごとの専門用語が含まれてくるので、一般紙と少し事情が異なるのは仕方あるまい。それでも、業界に入った事務系の人々が1年程度の経験で理解できるような記事であるべきだと考える。

「この中で、JR東日本が「やさしい日本語」を使い始めるという。使う場所は常磐線快速(上野)取手)の車内放送だそうである。挙げられた例が「運転を見合わせています」でこれを「電車を止めます」にするのだか、なぜ「やさしい日本語」に言い換えるのかという。乗客とシニア系の外国人が多く、彼らにやさしい英語ややさしい日本語の方が理解しやすいかたは、その言われたり車内アナウンスには固い言葉が使われていると感じてしまふ。それを普通の「丁寧な日本語」に言い換えていくわけだ。

いまの時代、各社はユニースリソースを電メールに添付して送ったり、自社のホームページにアップしたりするものが当たり前にある。その中には、リソースを見ても思いつく、なんとなりとカタカナと漢字が混ざり合っている。わざわざ難しい言葉や unnecessary な漢字を使う必要はない。要は相手に確実に伝えることである。そのために「やさしい日本語」は不可欠なものである。(秀)

建設 論評

やさしい日本語で 広報を

NEsic 城陽市で子どもデジタル体験
NECネットエスアイ(NEsic)は、京都府城陽市で「NEsicデジタル体験パーク in LOGOS LAND」を開き、同市在住の小学生やその保護者が参加した。

同社は城陽市のDX(デジタルトランスフォーメーション)推進パートナーに選ばれている。今回は同市のDXを推進する一環で、府内有数のアウトドアテーマパークであるLOGOS LANDを活用し、自然と最新のデジタル技術の融合をテーマに開いた。

次代を担う子どもたちには、出前講座「南極くらぶ」や「パーティ

の急慢であると言えざるを得ないか。「こんなことも知らないのか」といふことは決して思っていない。むしろ、相手は知らないという視点でリリースは作成すべきである。

以前、広報代理店のベテランが「記者はA4の用紙1枚以上あるリリースは後回しにする」と言っていた。A4用紙1枚の中に、自社が伝えたいことをいかに簡潔に、間違いない、やさしい日本語で書き尽くすか。余分な枝葉をそぎ落とし、本来訴えたいことを明確にして相手に伝える。わざわざ難しい言葉や unnecessary な漢字を使う必要はない。要は相手に確実に伝えることである。そのために「やさしい日本語」は不可欠なものである。(秀)

利用しやすい価格でパッケージ販売開始
同社の橋梁CIMシステムは鋼橋用の「CIM-GIRDER」、PC桁橋用の「CIM-COMP」、PC箱桁橋用の「CIM-BOX」で、これらは全て国土交通省の新技術情報提供システム(NETIS)に登録されている。

橋梁CIMシステムの3システムは現在、1ライセンス48~60万円(1年間保守サービス込み)で提供しているが、8月からはこれらを統合して利用しやすい価格を実現したパッケージ「橋梁CIMコレクション」シリーズをリリースしている。

鋼橋、PC橋の全てに対応できるコレクションは、CIM3システムに新たに開発した下部工付き

電線共同溝CIMシステム
同社が新規事業として取り組んでいるのが電線共同溝のCIMシステム「Cicco-CCO」だ。現在、希望者によるベータ版のトライアルを実施中で、このユーザーからの意見や要望を聞き、11月末にバージョンアップして、12月にリリースする。

マンパワー不可欠 開発人材を強化
製品ラインアップを充実しつつ、これらを定期的に更新して評価が高いユーザーサポートを継続するにはマンパワーの強化が不可欠となる。このため、同社は人材募集にも力を入れている。現在のスタッフは正社員18人、学生アルバイト8人の計26人。保田社長は「橋梁や電線共同溝、大規模橋梁リニューアルの設計経験者、社会インフラシステム開発の経験者などを求めている。建設業関係者であれば営業職も募集している。ぜひ気軽に問い合わせしてほしい」といふ。

実証商用機の小型SAR衛星 来月中旬の打ち上げ目指す
Synspective(シンスペクティブ、東京都江東区、新井元行代表取締役CEO)は、小型SAR(合成開口レーダー)衛星で、実証商用機の「Strix-1(ストリクス・ワン)」を9月中旬に打ち上げると発表した。

Strix-1は、2021年12月と22年3月に打ち上げたStrix-a、Strix-bに続く自社3機目の小型SAR衛星。将来的な衛星の多数機生産や運用を見据え、本格的にビジネス拡大するための実証商用機の初号機となる。実証商用機は、商用機としての実証を目的としたプロトタイプ機のことを指す。

記者座談会
A 日本ポーツ振興センター(JSC)が募集していた「新秩父宮ラグビー場(仮称)整備・運営等事業」のPFI事業者が鹿島代表者とするグループに決まった。築夫代表者とするグループの入札金額は25億7443万6000円、三菱地所代表者とするグループは35億7063万6958円で、鹿島グループの81億8181万8182円とかなり差があった。

B 施設整備費とスポーツ博物館の維持管理費を合わせた価格が運営権対価を引いた価格を合算した。鹿島グループは、施設整備費と博物館の維持管理費の合計が49億4061万0800円で、運営権対価41億5879万1907円を引いた。Cほかの応札者の金額の内訳は明らかになっていないので何とも言えないが、施設整備費や維持管理費で140億円以上の違いが応札者によって出るとは考えにくい。JSCは、入札公告時に運営権対価の下限額を100億円としており、鹿島グループはその4倍以上の額を提示した。JSCも全員で、運営権対価に触れず運営権に限り「かなり大きい」と話していた。施設に外部向け飲食店を設けたり、多様なスポーツの利用を可能にするなど、かなり大きな収益を見込めたのだと思える。

新ラグビー場も区域内に含まれる「仮称」神宮外苑地区市街地再開発事業との相乗効果もあり、大きな収益見込みだのかもしれない。それにしても、かなりチャレンジングな運営権対価を設定しているようだね。JSCは「今後の国のスポーツ施設のPFI事業に良い影響を与えたい」とも話していた。周辺再開発と一体化したスポーツ施設のPFIであれば、大きな収益を見込めるかもしれないという期待が膨らむね。

DX推進 設計施工企業を支援

DX推進 設計施工企業を支援
DX推進 設計施工企業を支援

DX推進 設計施工企業を支援
DX推進 設計施工企業を支援

DX推進 設計施工企業を支援
DX推進 設計施工企業を支援

DX推進 設計施工企業を支援
DX推進 設計施工企業を支援

DX推進 設計施工企業を支援
DX推進 設計施工企業を支援

DX推進 設計施工企業を支援
DX推進 設計施工企業を支援

DX推進 設計施工企業を支援
DX推進 設計施工企業を支援

DX推進 設計施工企業を支援
DX推進 設計施工企業を支援

DX推進 設計施工企業を支援
DX推進 設計施工企業を支援

DX推進 設計施工企業を支援
DX推進 設計施工企業を支援

温暖化防止へCNの取り組み重要

温暖化防止へCNの取り組み重要
温暖化防止へCNの取り組み重要

温暖化防止へCNの取り組み重要
温暖化防止へCNの取り組み重要

新秩父宮ラグビー場PFI事業者が決定/残暑続く、熱中症に注意

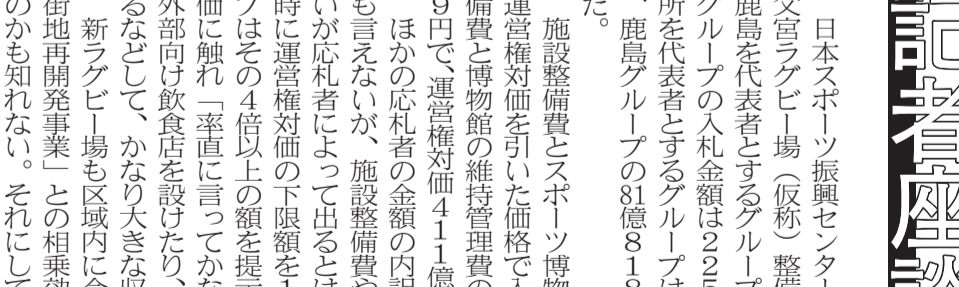
新秩父宮ラグビー場PFI事業者が決定/残暑続く、熱中症に注意
新秩父宮ラグビー場PFI事業者が決定/残暑続く、熱中症に注意

新秩父宮ラグビー場PFI事業者が決定/残暑続く、熱中症に注意
新秩父宮ラグビー場PFI事業者が決定/残暑続く、熱中症に注意

収益見込みに差が出た可能性

収益見込みに差が出た可能性
収益見込みに差が出た可能性

収益見込みに差が出た可能性
収益見込みに差が出た可能性



外観パース。供用開始後は、熱い戦いが繰り広げられる(Copyright Scrum for 新秩父宮)